

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 録

平成30年10月26日 午後2時00分 開議

出席委員

教 育 長	高 本 訓 久
委 員	戸 莉 恵理子
委 員	林 正 美
委 員	菅 沼 由貴子
委 員	渡 辺 時 行

説明のための出席者

教育部長	関 原 秀 一
教育部次長兼生涯学習課長	前 田 清 彦
教育部次長兼学校教育課長	今 泉 一 義
教育部次長兼中央図書館長	細 井 正 久
庶務課長	酒 井 保 吏
学校教育課主幹	小 林 和 弘
生涯学習課主幹	林 弘 之
スポーツ課長	戸 莉 憲 司
学校給食課長	寺 部 優
中央図書館主幹	尾 崎 浩 司

教育長が指定した事務局職員

主 事	瀬 野 正 章
主 事	柴 田 訓 代

議事日程

- 第1 議事録署名委員の指名
- 第2 第33号議案 教職員の任用について（非公開）
- 第3 第34号議案 平成31年度教職員定期人事異動方針について（非公開）
- 第4 第35号議案 平成29年度教育委員会事務の点検・評価報告書について

「高本教育長」 定刻になりましたので、ただ今から教育委員会を開会し、直ちに会議を開きます。始めに、日程第1「議事録署名委員の指名」を行います。本日の議事録署名委員は、教育長において、菅沼・渡辺委員を指名いたします。よろしくお願

します。

「高本教育長」 続いて、日程第2、第33号議案「教職員の任用について」を議題といたします。なお、本案と次の日程第3、第34号議案「平成31年度教職員定期人事異動方針について」につきましては教職員の人事に関する案件ですので、議事は非公開とし、会議内容の議事を別に記録するというところでよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

「高本教育長」 異議なしと認め、第33号議案と第34号議案は非公開で行います。それでは、第33号議案「教職員の任用について」事務局から説明をお願いします。

「今泉教育部次長」 第33号議案「教職員の任用について」を資料に基づき説明。

(以下、議事内容は個人情報に関わるため、議事を非公開)

「高本教育長」 続いて非公開で行います。日程第3、第34号議案「平成31年度教職員定期人事異動方針について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

「今泉教育部次長」 第34号議案「平成31年度教職員定期人事異動方針について」を資料に基づき説明。

(以下、議事内容は教職員人事異動方針に関わるため、議事を非公開)

「高本教育長」 ここからは公開に戻します。続いて、日程第4、第35号議案「平成29年度教育委員会事務の点検・評価報告書について」を議題といたします。それでは、事務局から説明をお願いします。

「酒井庶務課長」 第35号議案「平成29年度教育委員会事務の点検・評価報告書について」を資料に基づき説明。

「各課長」 「平成29年度教育委員会事務の点検・評価報告書」に沿って説明。

「高本教育長」 各課3項目前後でご説明をいただきました。以前の教育委員会定例会で、教育委員の皆さまからご意見をいただいた件についても修正されておりますので、ご自身の意見がどのように反映されたかはご確認いただけるのではないかと思います。それでは、教育委員会事務の点検・評価報告について、ご質疑をいただきたいと思えます。

「戸苅委員」 教育用ICT機器などの整備について、6ヵ年計画として29年度で一通り整備が完了したということですが、それに関する指標「情報教育の充実」のところで、平成30年度の小学校の評価時が76.9%、中学校が30%という数字が出ています。小学校と中学校の差があるのはどうしてでしょうか。なぜここまで差がついてしまったのかをお聞かせいただきたいです。整備が終わったということで、各学校に充実したコンピュータ等の指導が出来ていると思われるのですが、これは子ども

もたちが答えたのですか。それとも先生方が答えたのでしょうか。

「今泉教育部次長」 全国学力・学習状況調査で「よく行った」「どちらかといえば行った」など、「行う」というのは教師側ですので、学校質問紙による回答だと思います。

「戸荻委員」 ということは、中学校ではあまりコンピュータ等の情報通信技術を活用してはいないという解釈で良いのでしょうか。

「高本教育長」 6年間かけてパソコンを整備したのに、その実施割合が低いのは気になるというところです。

「戸荻委員」 もったいないですね。定例会でもよく取り上げられていて、「こういう授業で使えるようにしたい」「どの先生方も使えるようにしたい」という話題が良く出ていたのに、30%と見て疑問に思いました。

「高本教育長」 これは、整備の問題よりも活用の話になるので、学校教育課ですね。中学校の実施割合が低いのは、何か具体的な理由があるのでしょうか。

「今泉教育部次長」 コンピュータ教室では、技術の教員がパソコンの指導を行うのですが、この調査は教室の中でICT機器を使うかという設問でした。各教室にはパソコンの整備がありませんので、そこが十分出来ていないという回答になったのではないかと思います。分析する必要はあると思います。

「戸荻委員」 小学校は整備されているのですか。

「今泉教育部次長」 小学校は、担任がコンピュータ教室へ連れて行って、調べ物などをかなり行うので、使っているイメージを持っているのかもしれません。

「高本教育長」 原因は不確かなところがありますので、また何らかの形でお答えいたたければと思います。せっかく整備されているので、活用していただきたいという思いを込めてのご意見でした。他にございますか。

「渡辺委員」 シートNo.4の自己評価で「研修会には多くの参加があり」という表現があるのですが、「多くの参加」というのは曖昧なので、「何人参加した」あるいは「何割の先生が参加した」という表現に変えた方が良いと思います。前年度の点検評価委員の主な意見の中に「参加率の向上に向けて」という言葉もありますので、参加率を何%から何%という表記にするとより分かりやすいと思いました。研修会は、どの先生が対象になっているのでしょうか。

「高本教育長」 まず、参加者についてどうでしょうか。

「今泉教育部次長」 ちょうど変更したところですが、今年から全教員が参加となっています。その日に出張などが無い限り90%は参加していると思います。

「渡辺委員」 昨年までは、全員ではなかったのですか。

「今泉教育部次長」 昨年までは、「出来るだけ参加」としていました。昨年の反省として、せっかくの良い機会ですので「全員参加」としました。

「渡辺委員」 参加人数を把握されていると思いますので、表現をもう少し具体的にされた方が分かりやすいと感じました。

「高本教育長」 ありがとうございます。数字等つかんでいるのであれば、できるだけ具体的な表現をということでした。

「渡辺委員」 自己評価と点検評価委員の評価の違いを感じる所があるのですが、例えば、自己評価で「期待通りの成果をあげた」となっていますが、点検評価委員は「概ね良好」としている個所があります。私の個人的な感覚として、点検評価委員は3段階、自己評価は5段階なので、委員が「良好」と判断するのは、おそらく「期待を上回る成果をあげた」あるいは「期待通りの成果をあげた」と捉えるように思います。そう考えると、少しズレがあるので疑問に感じました。

「高本教育長」 渡辺委員が言われたように、自己評価は簡単に言えば、「良かった」「概ね良かった」に対し、点検評価委員は「まあまあ良かった」ということにズレがあるのではないかとということですが、スポーツ課はどのように解釈していますか。

「戸蒔スポーツ課長」 特に点検評価委員のご意見を踏まえて自己評価をしているわけではありませんので、5段階評価の上から二つ目ということで教育委員会全体での目揃えはしていますが、たまたま今回差が出てしまったという気がしています。

「高本教育長」 それぞれが評価をした結果がこういう形になったということですね。点検評価委員が「概ね良好」という評価をしたことについては、スポーツ課としてどのような受け止めをされていますか。

「戸蒔スポーツ課長」 スポーツ教室の開設などに努めていることを評価していただいているので、その趣旨に沿って今後の事業を進めていきたいと考えております。

「高本教育長」 スポーツ課としては、点検評価委員からは一定の評価はいただいたのではないかと理解しているとの事でした。

「渡辺委員」 違いがあっても良いと思いますが、その違いがなぜ起きているかを捉えた方が良いのではないのでしょうか。

「瀬野庶務課長補佐」 評価委員が評定をするときの視点として、数値を捉えるという観点があります。例えば、放課後子ども教室の参加者について平成27年度から平成29年度の数字を見ると、減少傾向にあります。数字を捉えると、評定としては良好とまでは出来なかったということは推測しています。数字が、全ての事業で評価の決定的な要素として判断できるかということ、そうとは限らないものも当然ありますが、客観的な評価をしようとした時に、そのような観点で最終的な判断をされたということは推測しています。

「高本教育長」 評価委員の観点の一つに、数値的な部分も影響しているだろうということとは推測できますね。ありがとうございます。他にはありますでしょうか。

「林委員」 全体的には、非常にわかり易くて良いと思うのですが、前回も話題になったこの数値について、「数字」「参加人数」そういったものを評価の指標にしているところが結構あります。点検評価はそれが一番分かりやすいかもしれませんが、少子高齢化で人口も減少している中で、参加人数を取り上げてというのは時代遅れだと思います。むしろ参加した人が満足したかどうかを評価の指標にしなければいけない時代が来ているのではないかと思います。

「高本教育長」 先ほどのスポーツ課の件も、参加者の手応えとか意識を感じて「期待以上」としたけれども、数字ではそこまで言えないという点検評価委員との分か

れ道があったと思われます。今の林委員のご意見について、何か事務局でお答えする部分ありますか。

「瀬野庶務課長補佐」 林委員がおっしゃられる通りで、先ほど戸荻委員にも着目いただきましたが、報告書の後方に「目標指標の状況」という項目を掲げています。これを敢えて後方へ載せたのは、数字で全てを判断出来ないのも、あくまで一つの参考にしたという理由があります。教育振興基本計画を作った際にも、そのような趣旨で捉えていこうという位置づけをさせていただいております。本編の評価シートに、この指標を載せていないのはそういった思いもありますので、来年度、点検評価委員に評価いただく際には、目標指標等の数値に関する位置づけについて事務局の考えを明確に述べて行くことも必要かと思えます。その辺は、事務局で検討させていただければと思います。

「林委員」 ぜひお願いします。特に臨床心理士の相談件数などは、相談件数が多いからという問題ではないと思います。財政課にもっと臨床心理士を雇って欲しいと説明する意味においては良い資料だと思いますが、それ以外はあまり役に立たないですね。それからもう一点、全体に関わる事ですが、二つの事業を合わせる形で評価をしているものが結構あります。目的が似通っているから一緒にしていると思うのですが、ちょっと評価がぼやける気がします。その辺りも少し考えていただけるとありがたいと思いました。

「高本教育長」 二つの事業が一緒になっているものの組み合わせについて、何かねらいや思いがあってこの様な形になったのでしょうか。

「関原教育部長」 以前、このような構成にすることを委員会に諮って構成させていただいたので、その時の説明をもう一度します。

「瀬野庶務課長補佐」 今回、点検評価報告書の構成を大きく見直しておりますが、基本的なスタンスとして、ボリュームが多かったことから極力コンパクトにしていきたいという大前提がありました。それに基づいて、方向性が同一の事業については一つのシートにまとめています。そうは言いながら、方向性は一緒でも種類の違うものや主体が異なるものが混在しているのも確かで、最終的な評定が両方に言い当てられているのかというと、なかなか苦しいものもあります。またその辺は、次年度の評価が行われる際の課題として事務局で受け止めさせていただくという事でよろしいでしょうか。

「高本教育長」 林委員としては、コンパクトにまとめることに対しては全然問題ないわけですね。ただ、そのまとめ方が少し違うのではないかというご意見でした。コンパクトにしていくことも大事だと思いますので、組み合わせについて、事務局でまた考えていただく必要はあるかもしれません。他にございますでしょうか。

「林委員」 もう一つ、食に関する指導の充実についてですが、自己評価に「朝食を食べない子どもが増えている」とあります。これは全国的な傾向だと思うのですが、豊川市は貧困と関係あるのでしょうか。そのような調査はされているのでしょうか。

「高本教育長」 このアンケート結果と今の貧困の問題について何か分かりましたら

お願いします。

「寺部学校給食課長」 毎年、食生活に関するアンケートを小学校5年生と中学校2年生を対象に行っています。そのアンケートの項目になっているもので、それについて貧困等との関係までは分析しておりません。

「高本教育長」 誰が食べていないと答えているかは、分からない状況ですよね。

「寺部学校給食課長」 アンケートの対象者も変わりますので、傾向としては出てきますが、貧困との関係があるかは分かりません。

「林委員」 全国的に非常に話題になっていますが、今後も調査をする予定はないですか。

「戸苅委員」 60ページの「目標指標の状況」を見ると、「子どもの体づくりの推進」の指標として、「朝食を食べない児童・生徒の割合」となっているので、これは毎年調査をしていきますよね。

「寺部学校給食課長」 食に関する指導をどのような形で行うかの参考にするためのもので、朝食を食べない生徒が多い、ではどういう指導をしていくかという参考にするものです。

「高本教育長」 食べていないという子どもに、何故食べていないかという理由を問うことはないのですね。

「寺部学校給食課長」 このアンケートは、長年この項目で統計を取っていますので、設問を変えると傾向がつかめなくなってしまうことがあります。

「高本教育長」 確かに、家庭の経済状況を直接聞くのは難しいので、食べられない理由が何かという傾向が分かれば、林委員のご質問に多少近いものが分かるかと思います。

「寺部学校給食課長」 ご指摘いただきましたので、来年のアンケートで細かなニュアンスを考えてみたいと思います。

「関原教育部長」 子どもが答えているので、なかなか難しいと思います。

「菅沼委員」 朝寝坊するから食べられないということもありますよね。

「高本教育長」 それで食べられない場合もあるし、親が用意してくれないから食べられない場合もあるかもしれません。同じ食べられないでも随分違います。家庭の状況と朝食の関係については、なかなか調査が難しいという答えです。後はよろしいでしょうか。

「菅沼委員」 「臨床心理士などによる教育相談の充実」の相談件数についてですが、これは相談をした件数ですか。相談したいと申し込みがあった件数ですか。

「今泉教育部次長」 確実に相談が完了した数です。

「菅沼委員」 枠が決まっているので、時間的にそれほど多くなったり少なくなったりする事はないですよね。一人に対しての時間はだいたい決まっていますので、多い少ないはあまり変わりませんよね。

「今泉教育部次長」 平成29年度については、特殊な事情がありましたので減っていますが、枠は極力全部埋めていますので、その枠以上は出来ません。

「菅沼委員」 出来ないですね。言っている意味としては、相談件数を書いても、相談したい人はもっと沢山います。先ほどの自己評価と評価委員の評価の差を考えると、「概ね期待通りの成果をあげた」という自己評価に対して、評価委員は「良好」と評価しているということは、自己評価を低くしているということになります。もっとやってあげたいと考えて「概ね」にしていらっしゃるのですよね。

「今泉教育部次長」 待つていただく期間が長いこともありますし、対応出来ない部分がありますので、低めの評価をしています。

「菅沼委員」 そういう意味で自己評価は「概ね」としていて、点検評価委員の方は「よく頑張っているよ」という評価ということですね。分かりました。先ほどと反対ですね。

「高本教育長」 先ほどの反対現象ですね。相談の件数ではなく、相談を希望している中身の問題を、今度は点検評価委員が汲んでいるということですね。他はよろしいでしょうか。何かありますか。

「今泉教育部次長」 先ほど、次回お答えすると言った戸荻委員の61ページのご質問の件ですが、「情報教育の充実」を評価するものとして、「コンピュータ等の情報通信技術を活用した学習指導を実施する学校の割合」を指標としているのですが、これは全国学力・学習状況調査の学校質問紙で、「コンピュータ等の情報通信技術を活用して、協働学習や課題解決型の学習指導を行いましたか」という問いに対する数字を使用しています。中学校でも総合的な学習がありますので、協働学習で地域のことを学習するなどの取組はありますが、地域に聞き取りに行くなど、コンピュータを使わないこともあるので、「課題解決的にコンピュータを活用しているか」というと、そこまでの授業は出来ていないということで、この数字が30%と低くなっています。

「渡辺委員」 平成27年度は、50%ありましたが。

「今泉教育部次長」 その頃は、まだ中学校に余裕があり、総合的な学習にもっと力を入れましょうという感じだったのですが、最近は新しい学習指導要領に向けて少しずつ準備を始めていて、総合の授業を減らしても良いとなっていますので、その辺も理由としてあるかもしれません。

「高本教育長」 ある特定の場面でコンピュータを使ったかという質問では、確かに数字が低くなってしまいかもしれませんね。また何か学校に聞く機会があれば、「コンピュータ等を使って学習指導に活用していますか」というような質問が出来れば良いかもしれません。

「菅沼委員」 これは、それぞれの教員ではなく、学校に対して調査をしているのですか。

「今泉教育部次長」 学校の代表者が答えています。

「高本教育長」 ということは、10校中3校ということですね。

「菅沼委員」 そういう意味になりますよね。

「高本教育長」 先ほど渡辺委員が言われた平成27年は、まだ総合学習が華々しく打ち出されて少し経った頃なので、各学校も勢いよく取り組んでいたのですが、小学

校はそれをやめて、英語活動をという方向に変わってきています。この質問でいくと小学校も数字が下がって行く可能性がありますね。先ほど課題になった部分のお答えをいただいたので、戸荻委員が納得されましたでしょうか。

「戸荻委員」 はい、ありがとうございます。

「高本教育長」 よろしいでしょうか。それでは、先ほど庶務課長から説明がありましたように、本日定例会で可決されましたら、議会へ報告する流れで、平成29年度の点検・評価報告書がまとまるという事でございます。よろしいでしょうか。多くのご意見、ご質問等をいただきましたので、採決に入らせていただきます。今後についての課題をいくつか出していただきましたが、次年度以降の点検評価に生かしていただくということで、平成29年度の点検・評価報告書については、原案のとおり可決ということでよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

「高本教育長」 異議なしと認めます。日程第4、第35号議案「平成29年度教育委員会事務の点検・評価報告書について」は原案のとおり可決いたしましたので、今後の手続きをよろしく願いいたします。

本日の会議に付議されました案件は以上ですので、これで本委員会は閉会といたします。

(午後3時24分 閉会)